

日本野鳥の会  
ウトナイ湖サンクチュアリ  
2021年度 活動報告



# Annual Report 2021

Utonai-ko Sanctuary

## ウトナイ湖サンクチュアリ開設40周年

皆さんとともに守ってきた水鳥の渡りの中継地 ウトナイ湖

- 記念シンポジウムをオンラインで開催
- ウトナイ湖と勇払原野を体感する
- 懐かしのレンジャーが帰ってきた
- 勇払原野の風力発電事業計画に対して



ウトナイ湖

# ウトナイ湖サンクチュアリ開設40周年



当会では1981年に、多くの方からのご寄付を元にウトナイ湖サンクチュア리를開設し、市民の皆さまのご支援をいただき、苫小牧市と協力して自然環境を保全してきました。しかし、勇払原野全体に目を向けてみると、工業地域にわずかに残された自然環境は、多くの野生動植物の重要な生息地や自生地にもかかわらず、法的な保護策がとられていない区域が多く残ります。当会は、ウトナイ湖からつながる勇払原野を「ラムサール条約湿地に」という目標を掲げ、勇払原野の貴重な自然を守り、その豊かさを伝える活動に力を入れています。開設から40周年を迎えた2021年は、この目標をテーマとするさまざまな記念事業を行ないました。

## 記念シンポジウムを開催しました

現在、北海道により、勇払原野内にある河道内調整地かどうない（以下、遊水地）の整備が進んでいます。この遊水地は洪水対策として設置されるものですが、弁天沼やその周辺湿原など特に重要な自然環境を含み、希少な鳥類も生息していることから、当会ではラムサール条約湿地登録による保全を提案しています。

そこで、遊水地の生物多様性保全について考えようと、2021年11月3日に記念シンポジウム「希少な野鳥の生息地～勇払原野をラムサール条約湿地に」を苫小牧市と共催しました。行政機関のほか、当サンクチュアリの活動を支援くださっている各企業や関係する諸団体からのご後援と、当会苫小牧支部のご協力をいただき、オンライン形式での開催となりました。



コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン形式で開催された記念シンポジウム

### 第1部 叶内拓哉氏によるスライド&トーク

当日は主催者挨拶、来賓挨拶に続き、2部構成で進行了ました。

第1部は、写真家の叶内拓哉さんによる「ウトナイ湖にシマアオジがいたころ」と題したスライドとトークです。勇払原野で撮影された野鳥や自然の写真に合わせ、以前はアカモズも頻繁に見られたことや、オオジシギほうふつが電柱ごとにとまっていたことなど、かつての勇払原野を彷彿とさせる貴重なお話をうかがいました。



「シマアオジは、昔は撮影する気にもならないほど、ごく普通に見られる鳥だった」と話す叶内拓哉さん

## 第2部 パネルディスカッション

第2部のパネルディスカッションでは、北海道大学大学院の先崎理之助教、法政大学の高田雅之教授、苫小牧市環境生活課の武田涼一課長、当サンクチュアリの中村聡チーフレンジャー、以上4名のパネリストが登場し、スライドを使いながら、「遊水地のラムサール条約湿地登録」というテーマで話題を提供しました。

各パネリストの発表後、当会の葉山政治常務理事がコーディネーターを務め、パネリストへの質問と回答を元に、テ-

マに沿ってディスカッションを行ないました。

約100名のオンライン参加者の中からは「ラムサール条約湿地登録の重要性を理解できました」という感想も寄せられました。

この40周年記念イベントを開催したことで、勇払原野の知られざる魅力、希少鳥類の生息地としての重要性、ラムサール条約湿地登録の意義などを、今後も多くの市民の皆さまに伝えていきたいとの思いを、新たにしました。

### あんなにいたシマアオジを思う

写真家

#### 叶内拓哉 氏

北海道に初めて足を踏み入れたのは今から50数年前、勇払原野を訪れたのは1976年でした。当時シマアオジはどこにでもいて、珍しい鳥という感じがせず、たいして撮影もしなかった記憶があります。今や本当に見ない鳥になってしまいました。



### 湿地が持つ機能を地域に生かす

法政大学人間環境学部教授

#### 高田雅之 氏

勇払原野には渡り鳥や希少鳥類の生息地、生物の多様性等いろいろな湿地の機能があると考えられます。企業、産業とともにある都市だからこそ、生物多様性をめぐる国際的議論を含めて、時代の流れを見据えながらできることがあるのではないのでしょうか。



### 課題は長期的な生息地保全

北海道大学地球環境科学研究院助教

#### 先崎理之 氏

勇払原野は大都市近郊に残された国内最大規模の原野と言え、その全域で希少鳥類が生息しており、その規模は国内屈指です。どのようにこの鳥類生息地を含む生態系を長期的に保全していくのが、勇払原野の今後の課題だと思えます。



### 課題をクリアしながら実現へ

苫小牧市環境生活課課長

#### 武田涼一 氏

勇払原野のラムサール条約湿地登録が実現されれば、新たな苫小牧市のシンボルとなります。ただ、実現に向けては維持管理、安全管理等のさまざまな課題をクリアする必要があります。皆さまにお知恵や情報をいただきながら考えてまいりたいと思います。



### 皆さまとの協議・連携を大事に

(公財)日本野鳥の会 ウトナイ湖サンクチュアリチーフ

#### 中村聡 氏

勇払原野湿原群、なかでも安平川流域に整備される河道内調整地が、今後ラムサール条約湿地となり、生物多様性保全および賢明な利用が進むよう、苫小牧市をはじめとする皆さまと協議、連携しながら活動を進めてまいります。



当日の様子を動画でご覧いただけます!



【第1部】



【第2部】



# 美々川 すいすいツアー

## ウトナイ湖に流れ込む、 原始の姿を残す美々川の魅力とは!?

初の試みとして勇払原野を流れる美々川の上流から下流までを通して観察する「美々川<sup>びびがわ</sup>すいすいツアー」を7月18日に開催し、21名が参加されました。

まずは細い道を歩き、秘密の場所へ。木々と水面から太陽の光がキラキラ、湧き水がチョロチョロ、美々川の源流部です。子どもたちと一緒に水に手を入れ、ヨコエビなどの水生生物を探しました。その後、カヌー乗り場へ移動。カヌーをひっくり返さないようにしながら乗り込み、約2kmの区間をコウホネの花や野鳥のさえずりを楽しみながら、タップコップ親水公園まで下りました。

参加者からは「すぐ近くにこんなにきれいな場所があるなんて」「開発されないように守りたい」などの声があがり、言葉で伝えることが難しい自然の魅力や保護の大切さを、実体験していただくことで伝えることができました。



カヌー体験の前には美々川源流部を見学



笑顔の参加者たち。本ツアーはボランティアの皆さん、カヌー事業者GaTeway Toursさんにサポートしていただきました



### 北海道e-水プロジェクト

本事業は、北海道、北海道コカ・コーラボトリング㈱、(公財)北海道環境財団の三者による協働事業「北海道e-水プロジェクト」の支援を受けて、実施します。

# 勇払原野 とことこツアー

## 初代レンジャーの解説とともに、 地域の魅力を再発見

7月4日、ウトナイ湖サンクチュアリ初代レンジャーの安西英明主席研究員を特別ゲストに迎え、勇払原野の自然を紹介する「勇払原野とことこツアー」を、当会苫小牧支部と共催しました。

言葉巧みな安西主席研究員の解説を聞きながら、道中ではアカモズやチュウヒを、そして電柱にとまるオオジシギも観察できました。苫東厚真火力発電所を望む弁天沼の風景、過去に整備された排水路に残る朽ちた橋げた、クロミノウグイスカグラ(ハスカップ)の熟した実など、参加された皆さんには、産業都市である苫小牧に貴重な自然が存在することを知っていただけたようです。



食虫植物のモウセンゴケを間近で観察



バスの中で説明する初代レンジャーの安西主席研究員



# おかえり レンジャー

ウトナイ湖サンクチュアリ開設40周年を祝して、かつて在籍した歴代チーフレンジャー4名が、ウトナイ湖に里帰りするイベント「おかえりレンジャー」を開催しました。行事でのガイドや、来館者対応を通して、皆さまに勇払原野の今昔をお伝えしました。久しぶりに想い出の地に帰ることができ、4名も嬉しそうに来館者と話していました。

## 自然保護にとって意味ある40年

### 安西英明（在任期間 1981-87年）

民間である当会が主導した自然保護事業に対し、国や苫小牧市などの行政が協力してくださり、サンクチュアリが開設できたことは、自然保護運動の観点からも大きな意味がありました。開設前から全国の支援者や地域の皆さんのおかげで、40周年を迎えることができたのは、初代レンジャーとしてとても嬉しいです。



## 今後もこの地域の湿地のために

### 葉山政治（在任期間 1996-2003年）

現在は、中国や東南アジアなどの越冬地と連携して、シマアオジが再び北海道各地で見られることを目標に活動しています。湿原が茶色に染まる秋の風景はとてもきれいですね。勇払原野がラムサール条約湿地になった時は、地域の皆さんに湿地を今後どのように利用していきたいか考えてもらい、そのお手伝いを私たちがしていきたいです。



## タンチョウの繁殖地となることを願って

### 原田 修（在任期間 1988年、1993-95年、2005-12年）

ネイチャーセンター周辺は、鳥類相の変化からも草原から森林に遷移しているのがわかります。安平川旧河川沿いの湿原調査で見たシマアオジは、私の在任中に姿を消してしまいましたが、近年弁天沼に現れるタンチョウは、今後の勇払原野保全の象徴に思えます。やがてこの地で、数つがいのタンチョウが子育てする日が来ることを楽しみにしています。



## 開設が自然保護への意識喚起に

### 大畑孝二（在任期間 1983年4月-1995年8月）

着任時はウトナイ湖サンクチュアリがオープンして3年目で、全国から学生や社会人の方が案内などのために集まってくださっていました。自然や野鳥の保護のために、日本最初のサンクチュア리를盛り上げようという活気がありましたので、千歳川放水路計画やゴルフ場建設ブームの問題に対して、地域の皆さんと協力して自然保護活動を行なうことができました。



## 40周年関連事業 パネル展示

サンクチュアリ開設後に取り組んだ千歳川放水路計画への対応、ウトナイ湖のラムサール条約湿地登録、ナホトカ号重油流出事故による海鳥救護、勇払原野の保全活動等を振り返るパネル展を、5月から11月まで開催しました。

自然とともに歩む産業都市苫小牧には、多くの湿地や草原、森林など生物多様性に富んだ自然環境が残されています。40年にわたり、歴代レンジャーが地域の方々と協力して苫小牧の自然保護活動に取り組んできたことを紹介しました。



ウトナイ湖に刻まれた40年の自然保護の歴史をひもときました



## (仮称) 苫東厚真風力発電事業計画に 対応しています

現在、苫小牧市の弁天地区から厚真町の浜厚真地区にかけての勇払原野で、大阪ガス株式会社と、そのグループ会社による風力発電事業が計画されています。この計画はチュウビ、タンチョウなどの希少鳥類への影響が懸念されるため、当会では事業の撤回を求めています。

5月15日には、地域のグループ「勇払原野で人と自然をつなぐ会」と共催で、当会の浦達也主任研究員を講師に「勇払原野の風力発電計画を学ぶ会」を実施しました。浦主任研究員からは風車が野鳥に与える影響について、中村チーフレンジャーからはウトナイ湖サンクチュアリの事業の概要や保全活動について、それぞれ説明しました。また、7月31日には、当会職員が事業計画地の浜厚真地区で開催された生物調査「Bio Blitz」に参加し、翌日は地域の方向けの自然観察会で講師を務めました。

7月には事業計画地内で地域のグループ「むかわタンチョウ見守り隊」によって、タンチョウの繁殖が確認されました。そこで12月には当会、当会苫小牧支部、ネイチャー研究会 in むかわの連名で、事業者に対しては計画の中止と撤回を求める要請書を、さらに、環境大臣、北海道知事、苫小牧市長、厚真町長には計画の抜本的見直しを勧告するよう要望書を提出。同時に苫小牧市政記者クラブで記者発表も行ないました。



工場地帯と隣接する勇払原野の弁天沼



講師と参加者をオンラインで結んで開催した「風力発電計画を学ぶ会」



BioBlitzでの調査。海岸部ではシロチドリとミユビシギを確認した

## TOPICS

### ● 自然ふれあい教室（苫小牧市からの受託）

市立小中学校の児童・生徒および保護者を対象とした普及啓発事業のひとつ。計11回、838名（先生を含む）を対象に、野外でのプログラムなどを行ないました。

### ● ガン類およびハクチョウ類の調査を実施

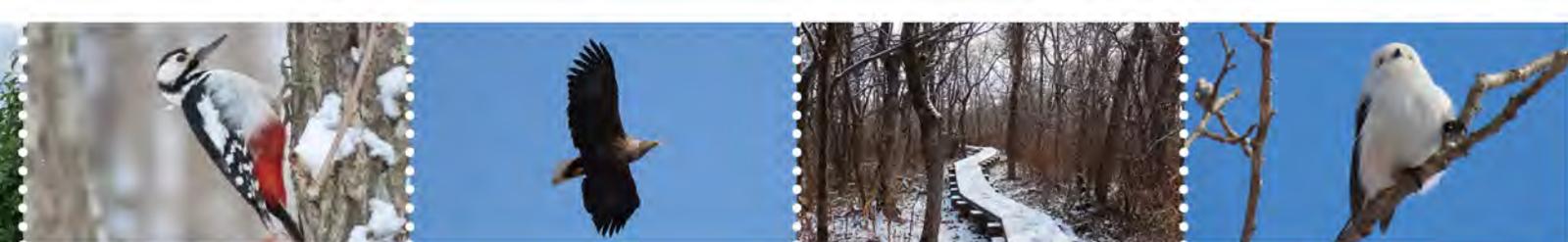
ボランティアの皆さまにご協力いただき、春と秋の渡りの時期に、ガン類の飛来数調査を7回実施しました。またハクチョウ類の初認日、終認日、最大飛来数等をまとめた報告書を作成しました。その一部は苫小牧市環境白書に掲載されています。

### ● 勇払原野の希少鳥類調査を実施

安平川下流部の河道内調整地（遊水地）内で、希少鳥類調査を実施しました。環境省レッドリストで絶滅危惧IB類のシマクイナ、アカモズ、チュウビ、絶滅危惧II類のタンチョウ、オジロワシ、準絶滅危惧種のマキノセンニュウ、オオジシギの計7種が確認され、重要な生息地であることが確認できました。

### ● 外来植物の除去作業を実施

小学校の環境学習や企業のCSR活動を通して、ウトナイ湖畔に繁茂する外来植物のオオアワダチソウの抜き取りを行ない、5団体にサンクチュアリの環境管理に貢献していただきました。



# 数字で見る2021年度

## ■ ネイチャーセンターの実績

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館やイベント中止等の対応を行なった

利用状況	来館者数(団体視察を含む)	4,445人
	団体対応	25団体(1,191人)
保護・保全	鳥インフルエンザ対策の監視巡回	36回
	タンチョウ動向調査	2回
	開発問題対応	7回
	ワシ類カウント調査	1回
	勇払原野鳥類調査(勇払弁天沼巡回)	6回
	日別出現鳥類記録調査	250日
	観察資源調査(自然情報マップの発行)	12回
	環境管理	2回(のべ37人)
普及教育	観察会等(行事)	9回99人(オンライン参加108名)
	CSR対応	5件51人
	ボランティア活動	41回
広報	ホームページ更新	250回
	ブログ更新	55回
	「野鳥」誌掲載記事	3件
	雑誌・新聞等掲載	33件
支援等	ウトナイ湖ファンクラブ	91人(法人9)
	ファンクラブ通信発行	4回
その他	委員会	3回
	取材対応	29件

## ■ ウトナイ湖野生鳥獣保護センターの実績 (苫小牧市からの受託)

自然観察指導	団体来館者への対応	21団体 1,141人
	自然観察会の実施	3回 535人
	渡り鳥フェスティバル	1回 226人
展示教材作成	ショートプログラムの実施(展示に代替え)	「ウトナイ湖の野鳥と自然」1作品
	自然情報収集及び掲示	12回
ボランティア育成	講演・研修会の実施 4回のべ	22人
	ボランティアコーディネート	66回
鳥類調査	全域水鳥カウント調査	12回
	ガン類個体数変動数調査	7回
	ハクチョウ類生息調査	通年
	ウトナイ湖周辺鳥類調査	1コース 5回
広報情報発信	通信紙の作成(ウトナイ湖通信)	12回
	SNSへの情報提供	96回

## 10月17・18日に 渡り鳥フェスティバルを開催

渡り鳥の観察会のほか、オンラインセミナーやクイズラリーなどを実施し、市内外の皆さんに、渡り鳥とその中継地となるウトナイ湖についてお伝えしました。



## ■ 団体来館者の対応実績(順不同)

- 苫小牧市立勇払小学校5・6年生(30人) ● アイシン北海道株式会社(11人) ● 苫小牧市立植苗小学校3・4年生(4回のべ62人) ● 苫小牧市立ウトナイ小学校2年生(2回のべ151人) ● 苫小牧市立ウトナイ小学校3年生(153人) ● 苫小牧市立ウトナイ小学校5年生(168人) ● しこつ湖自然体験クラブ「トゥレップ」(7人) ● ヨコハマタイヤリッド株式会社(2回のべ24人) ● 三五北海道株式会社(9人) ● 苫小牧市立若草小学校3年1組(38人) ● 千歳市立駒里中学校(15人) ● 苫小牧市立拓進小学校4年生(147人) ● 苫小牧市立拓勇小学校5年生(131人) ● 苫小牧市立緑小学校3年生(90人) ● 苫小牧中央高等学校 特進コース(19人) ● 苫小牧市立日新小学校4年生(66人) ● 勇建設株式会社(2回のべ37人) ● 有賀グループ(3人) ● 苫小牧市社会福祉協議会ボランティアセンター(講演・参加30人)
- 【合計1,191人】

QUESTION

この数字は、さて何でしょう？  
**7,800km**

勇払原野を出発したオオジシギが、越冬地のオーストラリアまでノンストップで飛行した距離です。飲まず食わずの7日間の旅でした。2021年7月に開始した渡りのルートを探るための調査で、衛星送信機を装着した3羽から得られたデータです。越冬地でしっかりエネルギーを蓄えて、2022年春に再び、繁殖のため勇払原野まで渡ってくる時のルートの追跡もできるでしょうか？



\*2022年3月末には、衛星送信機装着の3羽はオーストラリアを出発して北上を開始しました。

## ウトナイファンクラブの皆さまに支えられて

ウトナイ湖サンクチュアリの自然保護活動は、法人会員9団体、個人会員79名のファンクラブ会員の皆さまの会費により支えられています。2021年度には、会費の一部を活用し、これまでのウトナイ湖の歩みと、今後の課題について来館者にお伝えするパネルを制作することができました。ご支援いただいた皆さま、本当にありがとうございました。



## わたしも ウトナイ 応援団



日本野鳥の会 苫小牧支部の支部長であり、ファンクラブ会員でもある鷺田善幸さんは、ウトナイ湖サンクチュアリの開設以前から40年以上にわたってご支援くださっています。

これまで多くの活動や調査にもご協力くださった鷺田さんの、ウトナイ湖サンクチュアリと共に歩かれた人生、開設当時の思い出、そして現在・未来のウトナイ湖サンクチュアリや勇払原野に対する思いをうかがいました。

### 苫小牧とウトナイ湖、そしてサンクチュアリ

全国初のサンクチュアリ候補地の中でウトナイ湖が選ばれたことは、地元の者として、とても感慨深いものでした。当時は現在の日高町富川で教員をしており、『野鳥』誌などで「サンクチュアリ運動、1億円の募金」というサンクチュアリ開設のための活動を知って、職場でも募金を呼びかけたのを覚えています。

ネイチャーセンターオープンに向けたサマーキャンプにも参加し、当時の苫小牧支部長だった紀藤さんの家に大工道具を取りに行ったことが、今も思い出として残っています。

この40年では、千歳川放水路計画がウトナイ湖の一番の危機だったと思います。当時は、苫小牧支部として大畑レンジャー（現当会施設運営支援室室長）や苫小牧漁協などのグループと協力して、一緒に反対運動を行ないました。

今後も、ウトナイ湖サンクチュアリには野鳥保護の啓蒙活動や、浜厚真の風力発電事業計画のような開発問題が起きた際に、中心的な役割を担ってほしいです。そして苫小牧支部会員にも、サンクチュアリとともに歩むことを引き継いでいきたいです。工業用地の中で奇跡的に埋め立てられなかった勇払原野の弁天沼も残していきたいですね。



苫小牧支部共催「勇払原野とことごとツアー」で、ガイドをする鷺田支部長



鷺田善幸 苫小牧支部長。  
「私にとってウトナイ湖サンクチュアリの応援するのは当たり前のことになっています」

### ウトナイ湖サンクチュアリについて

日本野鳥の会は1970年代後半に、自然保護や環境教育の拠点となる「サンクチュアリ」をつくらうという運動を開始しました。そして、全国から寄せられた約1億円の募金により、1981年に日本で第1号の「ウトナイ湖サンクチュアリ」を苫小牧市に開設し、中心施設「ネイチャーセンター」が開館しました。

野鳥の重要生息地（IBA）として知られたウトナイ湖の保全活動を、現在も皆さまからのご支援により進めており、これまでにラムサール条約湿地登録や千歳川放水路計画の中止など、大きな成果を残すことができました。

2000年から2006年にかけて進めた「ウトナイ湖・勇払原野保全プロジェクト」で策定した保全構想に基づき、絶滅のおそれのあるアカモズなどが生息する、湖周辺の貴重で豊かな自然環境の保全にも取り組んでいます。

### 公益財団法人 日本野鳥の会 ウトナイ湖サンクチュアリ

〒059-1365 北海道苫小牧市植苗150-3

☎ 0144-58-2505（月・火曜日除く 9:00~17:00）

☎ 0144-58-2521 ✉ utonai@wbsj.org

ネイチャーセンターは土・日曜日および祝日のみ開館

ウトナイ湖 野鳥

検索



<https://wbsj.org/sanctuary/utonai/>